

2018年11月18日 言語表現学科 国語基礎学力型

〔一〕

問1	1	2	3	4
	はやし	舞台	そうごん	徹底
	5	6	7	
	妥協	達成	浸透	
問2	ア			
問3	ウ			
問4	オ			
問5	相対			
問6	これを知っ			
問7	イ			

〔二〕

問 1	1		2	
	素描		対照	
問 2	問 3	問 4		問 5
エ	オ	イ		ウ
問 6		問 7		問 8
もちろんと		弾性に富む		エ
問 9				
<p>課題文で述べられている「ことばの『住み分け』」とは、和語と漢語の使い分けのことである。課題文の著者は、「意味が部分的に重なりながらもうまく住み分けている」と述べているが、「意味が部分的に重なり」とは、たとえば「とき」という和語と「時間」という漢語が、どちらも時に関わる内容を表すということである。「うまく住み分けている」とは、漢語が明白な意味の輪郭を感じさせると同時に社会的な機能を前面に押し出すのに対して、和語は弾性に富む意味範囲をもつと同時に個人的な親しみをこめることができるということである。</p> <p>著者が述べる「ことばの『住み分け』」について、私は「こころ」という和語と「心理」「精神」という漢語を具体例に考えてみたい。</p> <p>「こころ」という和語も「心情」「心理」「精神」「魂」という漢語も、どちらも目に見えない人間の心の動き・はたらきを表すという点で「意味が部分的に重な」っているが、「心理」「精神」という漢語が明白な意味の輪郭を感じさせるのに対して、「こころ」という和語は「気持ち」「情け」「誠意」などの意味まで表せるという点で意味範囲が弾性に富んでいる。さらに、「心理学」「精神主義」などの漢語表現には社会的な機能があるのに対し、「まごころ」「こころざし」などの和語には個人的な親しみがこめられている。</p> <p>以上みてきたように、日本語の中にある和語と漢語の「住み分け」状態は、日本語を使う人々の表現力を豊かにし、日本語を用いて生活してきた人々の感性・思想・文化・芸術を多様化させることに貢献したと私は考える。(651字)</p>				